

近世中国朝鮮 交渉史の研究

松浦 章 著

A5判・三二〇頁
定価 六、三〇〇円
(税5%込)
ISBN978-4-7842-1709-0



【二〇一三年一〇月刊行予定】

近世中国と朝鮮国との交渉について、朝鮮から北京に赴いた赴京使による定期的な外交交渉と、漂着船や交易船による不定期な海を介した交渉の両面から考察する。

付録として、天理大学附属天理図書館蔵の「漂人問答」を全文影印掲載。

●予定内容目次●

- 序章 朝鮮王国の北京への使節派遣／本書の課題
- 第一部 朝鮮使節の北京への道程
——赴京使による交渉（一）
- 第一章 袁崇煥と朝鮮使節
朝鮮朝貢路の変更／朝鮮使節の見た袁崇煥
- 第二章 朝鮮使節の記録に見る北京の会同館
明代の会同館／清代の会同館／会同館における諸行事
補論 朝鮮使節が宿泊した北京の智化寺
智化寺と王振／智化寺と朝鮮使節
- 第三章 朝鮮使節の客死
朝鮮使節の北京への行程／朝鮮使節の客死と清朝の対応
- 第二部 朝鮮情報から見る中国——赴京使による交渉（二）
- 第一章 明朝末期における朝鮮使節の見た北京
明末における朝鮮使節の朝貢路／朝鮮使節の見た明朝末期の北京／朝鮮使節の見た後金・清の動向
- 第二章 清代朝鮮使節の台湾情報・林爽文の乱
清代台湾の林爽文の乱／清代朝鮮使節の見た林爽文の乱情報
- 第三章 朝鮮国に伝えられた康熙帝の訃報
康熙帝の訃報と雍正帝の登極詔／清朝朝貢国に伝わった康熙帝の訃報／日本に舶載された康熙帝の訃報と雍正帝の登極詔
- 第四章 乾隆太上皇の死と朝鮮使節
嘉慶四年の朝鮮使節／乾隆太上皇の遺詔
- 第三部 中国漂着朝鮮船と朝鮮漂着中国船
——海路による交渉（一）
- 第一章 明代中国に漂着した朝鮮船
明代における朝鮮船の中国漂着／万曆三十九年台州漂着朝鮮漁船について
- 第二章 中国船の朝鮮漂着
——順宗八年の明船漂着と「漂人問答」を中心に
朝鮮王朝時代における漂着中国船の事例／清入関後の明船の漂着をめぐって／「漂人問答」について
《影印》漂人問答 附 思漢吟咏
- 第三章 清末上海沙船の朝鮮漂着に関する一史料
『各司騰録』所載の漂着中国帆船／漂着船の記録
- 第四部 黄海の交渉史——海路による交渉（二）
- 第一章 天啓期における毛文龍占拠の皮島
毛文龍の皮島占拠／毛文龍支配下の皮島
- 第二章 康熙盛京海運と朝鮮賑濟
康熙盛京海運／清朝の朝鮮賑濟
- 第三章 清末山東半島と朝鮮仁川との帆船航運
清代山東沿海の航運／光緒十年朝鮮仁川入港の中国帆船と山東烟台との航運
- 終章 近世中国と朝鮮国との交渉史の意義

まつら・あきら：一九四七年生まれ、関西大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、関西大学文学博士。現在、関西大学アジア文化研究センター長・文学部教授

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近世中国朝鮮交渉史の研究		本体6,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1709-0
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代 引（書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い）				
			書店番線印		

※近世東アジア海域の文化交渉

松浦章著

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波濤を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後に登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。

▶A5判・472頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1538-6

漂流記録と漂流体験

倉地克直著

1830年、19名の船員を乗せて岡山を出航した神丸丸は2カ月あまり太平洋上を漂流しフィリピンに無人島に漂着。帰国を果たしたのは14名であった。本書は研究篇としてそれらの漂流記録を丁寧に比較検討し、漂流記録の史料価値についてひとつの試論を示す。さらに記録を通して漂流体験を再現し、漂流民の異国認識や異国交流の実態を探る。史料篇では神丸丸漂流事件の典型的な記録を翻刻。

▶A5判・352頁／定価7,875円

ISBN4-7842-1225-6

※戦国大名の外交と都市・流通

豊後大友氏と東アジア世界

鹿毛敏夫著

思文閣史学叢書

西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明らかにする。

▶A5判・300頁／定価5,775円

ISBN4-7842-1286-8

東アジアの本草と博物学の世界〔全2冊〕

山田慶兒編

18世紀、西洋の博物学の背景には大航海による世界の拡大と東洋貿易・植民政策があり、日本の本草の土壌となったのは吉宗の全国産物調査をはじめとする幕府や諸藩の殖産政策と外国貿易であった。東の本草と西の博物学は日本で遭遇する。本草と博物学における知的冒険の展開に興味はつきない。

▶A5判・上364頁／定価7,875円

ISBN4-7842-0883-6

▶A5判・下376頁／定価7,875円

ISBN4-7842-0885-2

東アジア経済史研究 第一集 中国・韓国・日本・琉球の交流

大阪経済大学日本経済史研究所編 大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書⑦

日本、世界、アジアにおける研究情報を系統的に取り込みデータベース化し国際的な研究の発展と交流を目指して行われた第1回東アジア経済史研究会「近世・近代の東アジア経済史研究」(2007年大阪経済大学日本経済史研究所主催)。本書は、その報告を基にした10篇を収録し、東アジア史研究のさらなる発展の芽を宿すものである。

▶A5判・344頁／定価4,200円

ISBN978-4-7842-1498-3

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、日本の産業技術史を俯瞰する。大項目には3ないし4頁の総説をおき、日本産業技術の流れを把握することができる「読む事典」。総説中にゴシックで取り上げた関連する重要項目を小項目として配列し、個別項目に関する知識を分野全体の展望との関連において示す。

▶B5判・550頁／定価12,600円

ISBN978-4-7842-1345-0

立憲国家中国への始動 明治憲政と近代中国

曾田三郎著

立憲国家中国の形成という観点から叙述する中国近代史。内閣制を中心とする行政制度の改革や、省制・省政の改革を軸に、大隈重信などの政治指導者や、有賀長雄のような伊藤系の法学者などの影響を具体的に把握することで、明治憲政の影響を動態としてとらえる。

▶A5判・400頁／定価8,400円

ISBN978-4-7842-1464-8

東アジアの交流と地域展開

北東アジア交流研究プロジェクト・藤井一二編

経済・文化・学術・観光の視点から「アジア地域交流学」構築を目指す一環として2002～2004年度を中心に重点課題に掲げ共同研究を進めてきた「中国日系企業をめぐる動向と北陸地域企業の中国進出の現状」と「環日本海圏における経済・文化交流と歴史的環境」「北東アジアの交流と経済・文化」の成果を基礎とした成果。

▶B5判・248頁／定価5,040円

ISBN978-4-7842-1639-0

朝鮮通信使の研究

李元植著

通信使の訪日における交歓、すなわち筆談と詩文唱和の文事こそ両国の善隣友好を支えた基調であるとの視点から、数多くの貴重な文献・史料を検証し、交歓の実態を明らかにすると同時に、両国文化の異同・相互の認識と理解、そして筆談唱和のもつ意義とその影響について究明する。

▶A5判・736頁／定価15,750円

ISBN4-7842-0863-1

「封建」・「郡県」再考

張翔・園田英弘編

東アジア社会体制論の深層

日中の知識人による「封建」・「郡県」をめぐる対話の歴史を再検討。中央と地方の関係だけでなく、秩序と規範、教育と学問、自国と外来勢力、科挙制と身分制、家族とコミュニティの構造、官僚制、さらに議会民主制などの視角も取り入れた13篇。国際日本文化研究センターでの共同研究

▶A5判・412頁／定価6,825円

ISBN4-7842-1310-4

日蘭交渉史の研究

金井園著

思文閣史学叢書

三浦按針を乗せたリーフデ号の漂着から、徳川鎖国・オランダ東インド会社の解散・外国船打払令を経て、開国に至る2世紀半の対外関係史の要をなす日蘭交渉史の知られざる諸局面を、主として在外未刊行史料に基づき実証する論考13篇に、通史・史料を添える。

▶A5判・500頁／定価8,925円

ISBN4-7842-0446-6

一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁／定価8,925円

ISBN978-4-7842-1580-5

東アジアと『半島空間』 山東半島と遼東半島

千田稔・宇野隆夫編

山東半島と遼東半島は先史・古代あるいは中世頃までは、中国文明の出口であったが近代には日本を始めとした列強諸国による近代文明の侵入口であった。古代・中世から近代におよぶ通時的・学際的・国際的な議論を通し、東アジア文明論に新視点を与える。2002年国際日本文化研究センターで行われたシンポジウムの成果。

▶A5判・420頁／定価5,040円

ISBN4-7842-1117-9

青島の都市形成:1897-1945 市場経済の形成と展開

樂玉璽著

青島がドイツ・日本との間に持った経済関係や、その関係が築かれた歴史的要因、青島の経済発展の過程や特徴、さらに青島が全中国へ与えた影響を解明。日中両国の広範な資料を用いることにより、詳細かつ中立的・客観的な立場での考察を試みる。

▶A5判・364頁／定価7,140円

ISBN978-4-7842-1453-2

地域社会から見る帝国日本と植民地

松田利彦・陳姪媛編

朝鮮・台湾・満洲

「支配される側」の視点と「帝国史」という視点――異なるレベルの問題に有機的関係を見いだすため、国内外の朝鮮史・台湾史研究者が多彩な問題関心を持ち寄り植民地期の地域社会像を浮かび上がらせる。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・852頁／定価14,490円

ISBN978-4-7842-1682-6

東アジアの交流と地域諸相

金沢星稜大学ORC代表 藤井一二編

経済・文化・学術・観光の視点から北東アジアの「交流の多様性」を明かし、「アジア地域交流学」の構築を目指す金沢星稜大学ORCプロジェクト。本書はその一環として2005年に敦煌研究院の2氏を迎えて開かれた「アジア文化交流と世界遺産を語る」フォーラムの成果である。

▶B5判・170頁／定価3,360円

ISBN4-7842-1306-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。